

減点主義とレビュー参照後の購買行動の関係性についての分析

丘林 潤^a 倉 美里^b 山浦 康毅^c

要約

本稿では「自ら満点の基準を定め、評価対象に各主体にとってマイナスな情報があった場合、自ら定めた満点から点を差し引いていく減点主義」の程度が強い人は、レビューを参照した後の購買行動に繋がりにくいと仮説を立てた。この仮説より Google フォームで減点主義の程度とレビュー参照後の経済行動を測るアンケートを作成して SNS で拡散したところ、42 件の有効な回答を得た。そこから減点主義の計測方法に基づいて回答を計算し結果を回帰分析したところ、仮説と整合的で有意な結果は得られなかったが、「減点主義の程度の強い人ほど、プラスの情報がまとめて提示されたレビューであれば参照後の購買行動に繋がりがやすい」という結果を得ることができた。

キーワード：世界観, 減点主義, 加点主義, レビュー

^a 慶應義塾大学経済学部 erindam@keio.jp

^b 慶應義塾大学経済学部 esuta01@gmail.com

^c 慶應義塾大学経済学部 kokidbas99@gmail.com

1. イントロダクション

本研究は、「世界観と経済行動との関係」に視点をおいて行われたものである。また、ここにおける「世界観」とは、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関する認識、感情、判断に関する、基礎的な家庭と枠組み」（大垣，2014, p.194）である。この定義に基づき、本論文では「減点主義」の世界観を研究対象とする。

「減点主義」とは、各主体が物事を評価する際の主義であり、本研究ではその定義を「自ら満点の基準を定め、評価対象に各主体にとってマイナスな情報があった場合、自ら定めた満点から点を差し引いていく」ものとする。相対する「世界観」としては「加点主義」を設定し、こちらの定義は「自ら満点の基準を定めず、評価対象に各主体にとってプラスな情報があった場合、加点していく」ものとした。

また、上述の世界観と関係する経済行動として、「レビュー参照後の購買行動」を設定した。

本稿における構成は、次のようなものである。第2節では本研究における仮説について述べ、第3節では分析方法について論じる。第4節において分析結果を提示し、第5節でその結果に対する考察を述べる。最後に、第6節にて結論を述べる。

2. 仮説

前節における減点主義の定義に従えば、減点主義の傾向が強い主体ほど、商品のレビューを参照した際に評価は厳しくなり、参照後の購買行動には繋がりにくいものと考えられる。また、購買する必要性の高い商品、すなわちホテルの予約やレストランの予約においては、参照するレビュー数が増加する傾向にあるのではないかと考えた。

3. 分析

まずは世界観と経済行動に関する質問をそれぞれ設定し、質問票を作成した。回答を数値化した上で、世界観に関する数値を説明変数、経済行動に関する数値を被説明変数とし、重回帰分析を行った。

3.1. 減点主義の計測方法¹

減点主義の測り方については以下の通りである。

まず、例として「以下のような特徴を持った人間がいます。基準点を100点とし、0～200点の間でそれぞれ人間性を評価してください。その際、解答はなるべく主観的にお願いし

¹ 減点主義の計測方法については大垣昌夫先生より大きな協力を得た。ここに深い感謝の意を表明したい。

ます」という質問を設定し、「めったに怒らない, 利他的」「めったに怒らない, 利己的」「短気, 利他的」「短気, 利己的」という4つの項目に点数をつけてもらう。

例としてある主体が, 【めったに怒らない・利他的】に101点, 【めったに怒らない・利己的】に90点, 【短気・利他的】に70点, 【短気・利己的】に10点, と回答したとする。

点数付けに誤差もあるとして, 誤差項 e_i を加え,

$$Y_i = aD_1 + bD_2 - cD_3 - dD_4 + e_i, (1)$$

というモデルを考える。ここで,

D_1 は利他的なら1, その他は0の値をとるダミー変数

D_2 はめったに怒らないなら1, その他は0の値をとるダミー変数

D_3 は利己的なら1, その他は0の値をとるダミー変数

D_4 は短気なら1, その他は0の値をとるダミー変数

である。

またこの主体は, c という一定の倍率でネガティブな側面をポジティブな側面よりも重視 ($c > 1$ の場合), または軽視 ($c < 1$) すると仮定している。

ここで,

$$D_3 = 1 - D_1, (2)$$

$$D_4 = 1 - D_2, (3) \quad \text{を代入して,}$$

$$Y_i = -c(a+b) + a(1+c)D_1 + b(1+c)D_2 + e_i, (4)$$

これを2つの説明変数として重回帰すると, 以下のような方程式を得る。

$$-c(a+b) = -77.75, (5)$$

$$a(1+c) = 55.5, (6)$$

$$b(1+c) = 35.5, (7)$$

この3つの方程式から c の値を解く。 $c > 1$ なら減点主義, $c < 1$ なら加点主義と判定できる。また同時に c の値が大きいほど減点主義の程度が大きいと考えられる。

上述の分析方法で, 4つの質問を用いるのは各主体の選好の影響を弱めるためである。

また, 実際の質問票では, 上述のような4問セットの質問を3セット作成した。

3.2. 質問票

用いた質問票は以下の通りである。

- ① 以下のような特徴を持った人間がいます。基準点を10点とし, 0~20点の間でそれぞれ人間性を評価してください。その際, 解答はなるべく主観的にお願いします。

【口が悪い・常識に欠ける, 聞き上手・自己主張出来ない, 勇敢・短気, 人の話を聞かない・自己主張出来ない, 臆病・おおらか, 言葉遣いが丁寧・常識人, 人の話を聞

かない・自己主張できる、口が悪い・常識人、勇敢・おおらか、臆病・短気、聞き上手・自己主張できる、言葉遣いが丁寧・常識に欠ける】

- ② ホテルのレビューを参考にする場合、1件の施設に対してどの程度の人数のレビューを参考しますか？
- ③ レストランのレビューを参考にする場合、1件の施設に対してどの程度の人数のレビューを参考しますか？
- ④ ホテルのレビューを参考にする場合、何件の施設のレビューを参照しますか？
- ⑤ レストランのレビューを参考にする場合、何件の施設のレビューを参照しますか？
- ⑥ あなたは、旅行をすることになり、ホテルを予約する必要があります。そこで以下のようなホテルのレビューを見つけました。このレビューのみを参照した場合、このホテルを利用しますか？ 【先日、初めて利用させていただきました。アメニティがとても充実してて、ホテルの従業員の方のサービスも最高でした！ただ、料理があまりおいしくなく、ホテル自体の値段も少々高かったです……立地は駅とコンビニが近かったものの、風景はあまり良くなかったです……】 ※利用しないなら 0 するなら 1 を選択してください
- ⑦ あなたは、旅行をすることになり、ホテルを予約する必要があります。そこで以下のようなホテルのレビューを見つけました。このレビューのみを参照した場合、このホテルを利用しますか？ 【夏休みにこちらを利用しました。部屋は狭いですが、値段は相応に安かったです。海が近いこともあり、ついている朝食はなかなかおいしかったです。ただ、従業員のサービスはひどいものでした。窓から海が見えたのはうれしかったです。】 ※利用しないなら 0 するなら 1 を選択してください
- ⑧ あなたはレストランを予約する必要があります。以下のようなレストランのレビューがありました。このレビューのみを参照した場合、このレストランを利用しますか？ 【音楽、雰囲気、味、最高！料理の見た目は正直あまりよくなかったけど、珍しい食材も多くて楽しかったです！値段は微妙な感じです！】 ※利用しないなら 0 するなら 1 を選択してください
- ⑨ あなたはレストランを予約する必要があります。以下のようなレストランのレビューがあります。このレビューのみを参照した場合、このレストランを利用しますか？ 【お店の雰囲気はよかったし珍しい食材多くておもしろかったけど、味独特すぎてちょっと好き嫌いわかれそう。値段は食材のことを考えたら妥当かなと思います】 ※利用しないなら 0 するなら 1 を選択してください

4. 分析結果

前節において提示した質問票と分析方法により,以下のような分析結果が得られた.

表 1 減点主義の程度と経済行動に関する値の分析結果

	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
回帰係数	9.635	11.007	7.790	10.780	0.234	0.324	0.447	0.303
P-値	0.346	0.344	0.181	0.229	0.048	0.170	0.762	0.180

分析結果は小数第四位を四捨五入した.

5. 考察

前節の分析結果より,減点主義の程度とレビューの参照数との間に,特別な相関はないことが推測される.よって,研究仮説と整合的で有意な結果が得られたとは言えない.

しかし,質問⑥については,回帰係数より正の相関がみられ,また 5%の水準で有意である.これは,「減点主義の程度の強い人間ほど,質問⑥のレビューを参照した後で当該ホテルを利用しやすい」ことを意味する.

質問⑥のレビューと質問⑦,⑧,⑨を比較すると,⑥はレビューの前半でプラスの情報,後半でマイナスの情報をまとめて提示しており,一方で⑦,⑧,⑨のレビューはプラスの情報とマイナスの情報が交互あるいはそれに近い状態で提示されている.よって,プラスの情報がまとめて提示されていると,減点主義の程度の強い人間は購買行動に移りやすいということが推測される.これは,前半でまとめてプラスの情報が提示されることにより,レビューを参照する主体の「満点の基準」が高く設定されているからであると考えた.

今後の展望として,レビューの前半後半でプラスマイナスの情報をまとめて提示することが減点主義の程度と結びつくかどうかの更なる検証が必要だと考える.

6. 結論

減点主義の程度が強いとレビュー参照数が増加するという仮説に対しては整合的で有意な結果は得られなかったが,減点主義の程度が強い主体ほど「前半にプラスな情報,後半にマイナスな情報が纏まって提示されたレビュー」を参照した時,より購買行動をとりやすいという結果を得た.

引用文献

大垣昌夫・田中沙織(2014)『行動経済学——伝統的経済学との結合による新しい経済学を目指して』有斐閣